

5. 火災予防

1 全国火災予防運動

(1) 春季及び秋季全国火災予防運動

火災予防思想を住民に普及させるため、最も重点的に行われているのが、春秋2回の火災予防運動である。

令和5年度は、秋季：令和5年11月9日～11月15日、春季：令和6年3月1日～3月7日において、2023年度全国統一防火標語「火を消して 不安を消して つなぐ未来」を合言葉として実施している。

なお、火災予防運動期間中に県下消防本部が実施している主な事例は次のとおりである。

- ア 防火ポスターを作製し、事業所、学校、町内会等に配布
- イ 消防車両、防災行政無線等による防火広報
- ウ 事業所等に対する予防査察・消防訓練指導
- エ 住宅用火災警報器の設置徹底に向けた戸別訪問
- オ ホームページやYouTubeチャンネル等を活用した火災予防広報

(2) 車両火災予防運動（令和6年3月1日～3月7日）

この運動は、車両交通の関係者及び利用者の火災予防思想の高揚を図り、もって車両等の火災を予防し、安全な輸送を確保することを目的として、消防庁と国土交通省の主唱により次の事項を重点事項として実施した。

- ア 駐車場、駅舎及びトンネルの防火安全対策の徹底
 - (ア) 初期消火、通報及び避難訓練の実施
 - (イ) 消防用設備等の点検整備の励行及び取扱方法の習熟
 - (ウ) 消防防災体制の整備・充実
- イ 危険物品の車両内への持込み禁止
- ウ 車両からのたばこの投げ捨て防止
- エ 車両の防火安全対策の徹底
 - (ア) 初期消火、通報及び避難訓練の実施
 - (イ) 消火器設置義務車両の消火器の点検整備及び取扱方法の習熟
 - (ウ) 車両への消火器設置の普及促進
 - (エ) 自動車等のボディカバーにおける防災製品の使用促進
 - (オ) 車両の内燃機関、電気系統等の点検整備
- オ 食堂車等における火気使用設備の点検、整備の励行
- カ 危険物品及び有害物品の安全輸送の励行
- キ 水底トンネル等における危険物等を積載する車両の通行の禁止又は制限の遵守

(3) 全国山火事予防運動（令和6年3月1日～3月7日）

○統一標語 「忘れない 山の恵みと 火の始末」

この運動は、広く国民に山火事予防意識の啓発を図るとともに、予防対策を強化し、森林の保全と地域の安全に資することを目的として、林野庁と消防庁の主唱により、主に次の重点事項を啓発活動として実施した。

ア ハイカー等の入山者、森林所有者、林内及び森林周辺の農地及び作業現場の作業員、地域住民、小中学校の児童・生徒等を対象に次の重点事項の啓発活動を実施する。

(ア) 枯れ草等のある火災が起こりやすい場所では、たき火をしないこと

(イ) たき火等火気の使用中はその場を離れず、使用後は完全に消火すること

(ウ) 強風時及び乾燥時には、たき火、火入れをしないこと

(エ) 火入れを行う際は市町村長の許可を必ず受けるとともに、あらかじめ必要な防火対策を講じること

(オ) たばこは、指定された場所で喫煙し、吸いがらは必ず消すとともに、投げ捨てないこと

(カ) 火遊びはしないこと、また、させないこと

イ 駅、市町村の庁舎、学校、登山口等への警報旗、山火事予防ポスター等の掲

示やテレビ、ラジオ、有線放送、新聞、インターネット等の各種広報媒体の活用等により、入山者、地域住民等に対し山火事予防意識の高揚を図る。

ウ 火災警報発令中など、火災の発生しやすい時期には、関係機関が協力して、住宅地等に近接する森林での重点的な森林パトロールを実施するなど森林の保全管理体制の強化を図ることにより、火災の未然防止、早期発見に努める。

エ 森林又は森林に近接している土地における火災の予防のため、農林業関係者等と消防関係者等との密接な連携の下に、初期消火を中心とする消防訓練、研修会、予防及び消火資機材等の適切な点検・管理等を実施し、地域の実情に即した予防対策を計画的に講ずるよう努める。

オ 地域住民、農林業関係者等による山火事予防組織の育成強化を図るとともに、これらの組織が女性（婦人）防火クラブ等のいわゆる民間防火組織と連携を図り、予防活動を行うよう要請する。

2 第70回文化財防火デー（令和6年1月26日）

昭和24年1月26日の法隆寺金堂火災、その後の金閣寺等の重要文化財の焼失を契機として、毎年1月26日を「文化財防火デー」と定め、文化庁と消防庁の主唱により文化財防火運動を昭和30年から展開し、文化財を火災等から守るとともに、国民一般の文化財愛護意識の高揚を図っている。

本県においては、国・県指定の文化財建造物を中心として、消防機関と各市町村教育委員会が協力して、広報活動、防火訓練等を行っている。

3 民間防火組織には工場、事業所等の自衛消防隊のほかに、地域の幼稚園、保育園の幼児によって組織される幼年消防クラブ、地域の小中学校の児童、生徒によって組織される少年消防クラブ、地域女性によって組織される女性防火クラブがある。

平成30年度には、本県浦安市において「少年消防クラブ交流会（全国大会）」が行われ、浦安市少年消防団が初優勝を果たした。この大会は、将来の地域防災の担い手育成を図るため、消防の実践的な活動を取り入れた合同訓練、避難所体験等を通じて他の地域の少年消防クラブ員と親交を深めるとともに、消防団等から被災経験及び災害への備えを学ぶことを目的に、消防庁主催により平成24年から開催している。

幼年・少年・女性クラブ員が将来に渡って火災予防思想を高めていくことを目的とするとともに、間接的には、クラブ員を通じて各家庭、学校等における火災の防止等や消防団員の著しい減少を来たしている地域において、こうした団員の減少を補う効果に期待を持てるものである。このことから、各市町村においては、今後もクラブの組織化を図るとともに、既成のクラブについては一層の強化育成が望まれる。